

「SL 冬の湿原号」の現状と今後について

1. 「SL 冬の湿原号」の運行について

「SL 冬の湿原号」は、冬の道東観光の風物詩として 20 年以上釧網線で運行しております。

- 運行開始：2000 年（平成 12 年）1 月 8 日
- 運行区間：釧網線 釧路～標茶間
- 列車編成

C11 171	スハ7 14-505	スハシ 44-1	オハ 14-526	オハ 14-519	スハ7 14-507
	1号車	2号車 (カフェカー)	3号車	4号車	5号車



2. 「SL 冬の湿原号」の経緯について

(1) C11 171 号

- 1940 年（昭和 15 年）川崎車輛(株)で製造
- 北海道各地で運行
- 1975 年（昭和 50 年）用途廃止
- 標茶町で静態保存

●1998 年（平成 10 年）～1999 年（平成 11 年）：復元

- ・1998 年（平成 10 年）苗穂工場に搬入



・1998 年（平成 10 年）～1999 年（平成 11 年）復元

S L の心臓部であるボイラーは、大阪の業者で内部の煙管の取替を行いました。
車体・台車の復元を苗穂工場で行い、1999 年（平成 11 年）4 月 21 日付で車籍復活しました。



●全般検査

- ・復活から、2003 年度（平成 15 年度）、2008 年度（平成 20 年度）、2013 年度（平成 25 年度）の計 3 回実施

（2）14 系客車（1、3～5 号車）

●1973 年（昭和 48 年）～1974 年（昭和 49 年）に製造

●秋田運転区（スハ 14-507、ホハ 14-526）熊本機関区（スハ 14-505、ホハ 14-519）で使用

●1980 年（昭和 55 年）～1982 年（昭和 57 年）五稜郭車両センターで北海道向けに改造し急行「はまなす」などとして使用（札幌運転区所属）

●1999 年（平成 11 年）に S L 運行に合わせて苗穂工場で改造（スハ 14-507 は 2003 年に改造）

- ・改造内容：放送装置、腰掛変更、テーブル設置、ダルマストーブ設置など



14系客車室内



ダルマストーブ

(3) カフェカー（2号車）

- 1952年（昭和27年）に製造された旧型客車（スハ744-2）
- 函館→札幌→旭川→函館で使用
- 1988年（昭和63年）に「C62 ニセコ号」の運行に合わせ五稜郭車両センターで「カフェカー」に改造（スハ744-1に車両番号変更）



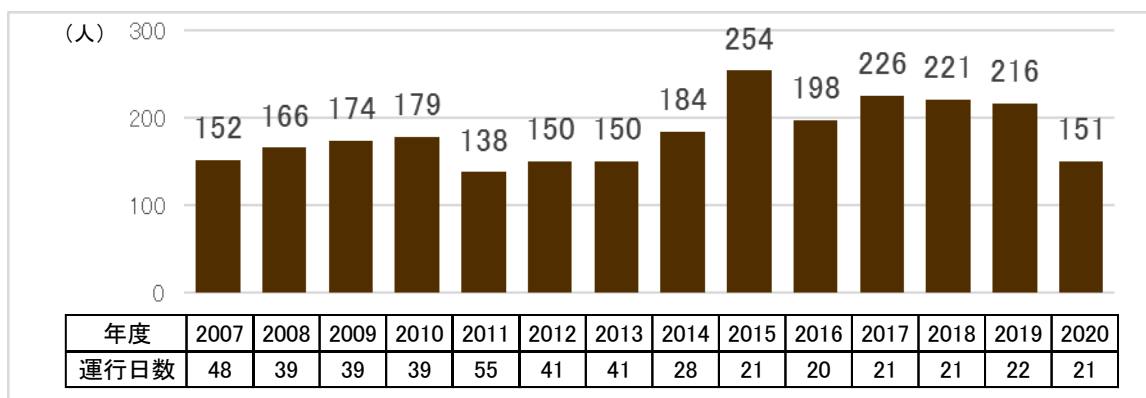
カフェカー室内



カフェカー販売カウンター

3. 乗車人員の推移

1列車当たりの乗車人員の推移（2007年度～2020年度）



※2020年度（令和2年度）は、1月23日～2月7日（7日間）の実績

4. 使用車両の現状

(1) C11 171 号

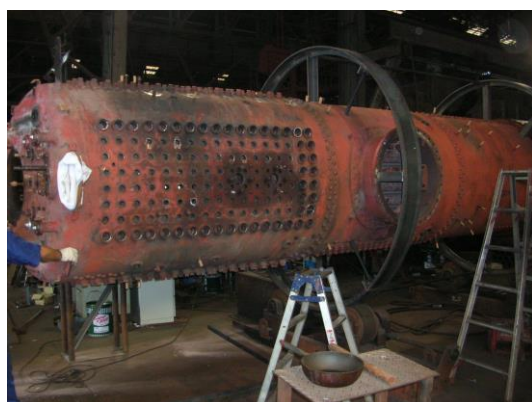
- ・ 2021 年（令和 3 年）に苗穂工場にて全般検査を実施する計画です。
- ・ S L の心臓部であるボイラーは大阪の業者へ搬送し、修繕・性能検査を行います。
- ・ 車両新製から 80 年、前回 2013 年の全般検査から 8 年経過しており、台枠や台車など車両の主要な部品に摩耗やひびが発生するなど、検査の都度当該箇所を修繕する必要があります。



全般検査実施風景



全般検査実施風景



ボイラーの修繕
(大阪の業者で修繕・性能検査実施)



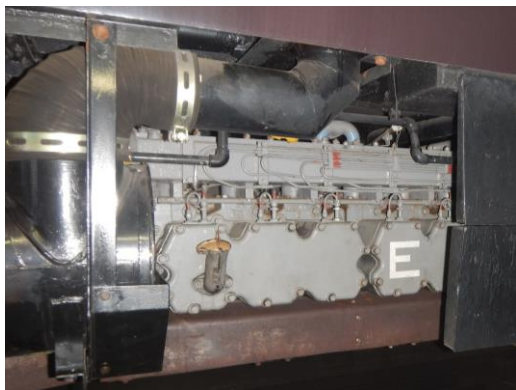
ボイラー内部
(過去修繕時)



台枠の一部に発生したひびの修繕を実施（過去修繕時）

(2) 14系客車（1、3～5号車）

- ・ サービス機器の電源に使用している発電エンジンは、1972 年（昭和 47 年）、1980 年（昭和 55 年）製造で老朽化が進んでおり、製造中止のため修繕を行う部品の入手ができず、新たな発電エンジンへ交換が必要です。
- ・ 台車部品など各部老朽化しており、部品交換が必要な状況です。
- ・ 車体外板や客室の腰掛やトイレなども老朽化しています。



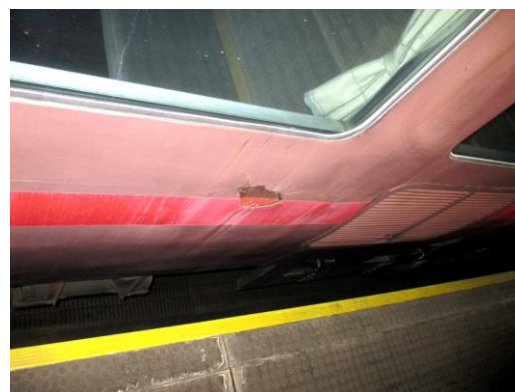
老朽化した発電エンジン



車体の状態



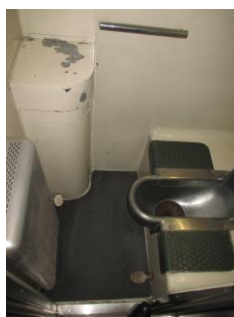
外板塗装の状態



外板塗装の状態



内装品の劣化



和式トイレ



雨漏りの発生

(3) カフェカー (2号車)

- ・ 車体外板や木材を使用した内装品なども劣化が著しい状態となっています。



内装品の劣化



床（木材）の劣化



天井化粧板のひび割れ

5. 「SL冬の湿原号」リニューアル計画

新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、SL冬の湿原号のご利用は減少し、厳しい状況にありますが、運行継続については、地域の皆様から強いご要望をいただいているところです。

新型コロナの影響もあり、当社は非常に厳しい経営状況ではありますが、地域の皆様からのご要望、また当社としても道内唯一のSL観光列車を守るため、SLの全般検査、客車リニューアルを実施し、引き続きSLを運行してまいります。

(1) 実施内容

○C11 171号の全般検査を実施します。

○お客様のご要望を反映した車両のさらなる魅力アップのため、内装のリニューアルを実施します。2号車（カフェカー）については、旧型客車のレトロな雰囲気を損なわないように内装リフレッシュを行います。

○老朽化した発電エンジンや台車部品などの機器取替を行います。

(2) 工事費

(単位：億円)

実施項目	概算費用
C11 171 全般検査	1
客車内装リニューアル工事	2
客車老朽機器（エンジン等）取替	1
合計	4

○スケジュール

2021 年度(令和3年度)	2022 年度(令和4年度)
「SL冬の湿原号」 運転 SL全般検査 SL客車内装リニューアル工事	「SL冬の湿原号」 運転 SL客車内装リニューアル工事